

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三橋中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

次年度に向けて
(3月)

年度末評価
(2月)

反映

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題>各種調査で生徒の学習時間に関する質問項目は、低い傾向がある。基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け、繰り返し取り組むことが課題となっている。 <指導上の課題>学力の定着状況に差があることから、個に応じた指導の必要性が高い。	⇒ 小テストの実施・業前活動での朝学習・家庭学習の課題設定など、基礎的・基本的な内容について、繰り返し取り組む。【通年】 授業改善に向けては、本年度より学校研究として行っている「個別最適な学び」を、さらに推進していく。各教科で公開授業を行い、教職員が参観し合う研修を行う。【2学期】
思考・判断・表現	<学習上の課題>思考力・判断力・表現力を伸ばす前提となる、基礎的な事項の定着に課題があると考えられる。 <指導上の課題>生徒が自己表現する活動を設定すると共に、その過程の評価・指導改善を図る必要がある。	⇒ 各教科で、見方・考え方を働かせ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確かにした上で、主体的・対話的で深い学びができるよう授業改善を図っていく。学校研究を進め、成果を教職員で共有しながら、指導改善に努める。【通年】 家庭と連携をとりながら学習習慣を確立し、基礎的・基本的な内容を定着を図る。【通年】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月～5月)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語科では、全国平均を上回る結果であった。特に「漢字」の正答率は、全国を大きく上回る結果であり、ある程度定着が図られていると考えられる。一方で「語彙」に関する問題は、正答率がやや低い結果であった。 数学科では、全国平均と同水準の結果であった。「図形」の領域の知識・技能に関する問題の正答率は、高い傾向が見られた。一方で、「数と式」の領域の知識・技能に関する問題と、「データの活用」の領域の「階級」に関する問題は、やや低い傾向が見られた。
思考・判断・表現	国語科では、全国平均を上回る結果であった。特に読むこと・書くことの内容は数値が高く、学力の向上が見られている。数学科では、全国平均を上回る結果であった。特に「図形」の「証明問題」、「確率」などの問題は、正答率が高い傾向が見られた。また、生徒質問紙調査では国語・数学共に、学習活動の充実に関する項目も、全国平均を大きく上回る結果であった。主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善が進んでいることが、生徒の意識調査からも読み取れる。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(児童生徒の実態把握)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	小テストの実施・業前活動での朝学習など、各学年の実態に応じ実施することができた。テスト前を中心に、課題と計画表を配付し、主体的に家庭学習に取り組めるようにした。個別最適な学びの充実に向け、校内研修に取り組んだ。	数値の低かった領域は、教科担当で共有し、重点的に指導していく。引き続き、小テストの実施・業前活動での朝学習・家庭学習学習課題の適切な設定、校内での授業公開など、当初の計画通り進めていく。
思考・判断・表現	B	自由進度学習について校内研修を行った。学んだ視点を生かして、各自授業実践を行い、夏休みに教科ごとに共有を行った。2学期以降の授業で生かしていけるようにする。 今年度より、新たに学習だよりの発行を始めた。定期テストの範囲や、学習のポイント、学校での取り組み等を、保護者に周知することができた。	教職員間で成果を共有しながら、授業改善の取組を続けていく。家庭との連携をすすめ、生徒の学習習慣が身に付くようにしていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	